

令和5年度富山県SDGs推進連絡協議会 議事要旨

日時：令和6年3月26日（火）14:00～15:30

場所：富山県民会館 401号室

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

(1) 富山県のSDGsの推進について **資料1**

令和5年度の主な取組み、令和6年度の取組み予定について事務局から説明

(2) 「富山県SDGs宣言」事業について **資料2**

富山県SDGs宣言の応募状況等について事務局から説明

(3) 富山県のSDGsの進捗について **資料3**

(4) 各団体の現状報告及び意見交換 **資料4**

委員から各団体でのSDGs推進に関する取組状況について説明

【富山経済同友会】

・富山経済同友会は、60周年を迎えた2021年度にSDGs宣言を行った。こういった活動を通して、持続可能な地域づくりに貢献していこうというところ。

・重要課題については大きく四つ、一つ目は持続可能な企業経営、二つ目に持続可能な人づくり、三つ目に持続可能な地域づくり、四つ目にパートナーシップ、こういう四つの側面から、委員会が中心となって取り組んでいる。

・持続可能な企業経営については、企業の持続的発展、環境との調和という観点から、主にESG経営小委員会、企業経営委員会が中心になって取り組んでいる。また、持続可能な人づくりについては、多様な人材の活躍、次世代を担う人財育成の観点から、教育問題の委員会、それから人材活躍委員会、またアントレプレナーシップ、要はスタートアップを育成するところが中心になって取り組んでいる。持続可能な地域づくりについては、まちの創生、地域の活性化と魅力向上という観点から、主に地域創成の委員会、文化スポーツ委員会が中心となって取り組んでいる。

・また、同友会は県内の大学や経済団体、また他地域の経済同友会との連携、パートナーシップを意識しており、パートナーシップという形で整理している。毎年度こういった形で整理をし、SDGsにどのように関わっているのかということを見える化している。

【富山県農業協同組合中央会】

・JAグループは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」ということで、安心・安全な農畜産物を作り、消費者、地域住民に提供することを仕事としている。また、農業自体が、農産物を提供するだけでなく、多面的機能があると考えており、国土の保全や、水源の涵養、環境の保全、また良好な景観の形成や文化の伝承など、そういったことで地域に貢献し

ていく団体だと考えている。協同組合の活動というものが SDGs とは非常に親和性が高いと考えており、事業を通じて SDGs に取り組んでいくこととしている。

- ・具体的な取り組みとしては、農畜産物の提供が第一になるが、その他に、女性組織や農業者の青年部などが中心となった、フードドライブや、プルタブ・ペットボトルキャップの回収、またグリーンツーリズムや親子農業体験、「助け合い組織」によるボランティア活動に取り組んでいる。

- ・また、中山間地域においては、移動販売車などを出して買い物支援の事業も実施している。県内に 17 カ所、農畜産物の直売所を運営し、地元の安心・安全なものを提供している。

- ・また、「国消国産」は JA グループが全国を挙げて行っている取り組み。「地産地消」は、地元で作ったものを地元で消費しましょうという取り組みだが、私どもは「国消国産」ということで、国民が必要とする消費する食料をできるだけその国で生産し、長距離輸送による CO₂ の削減や、輸入に頼らない、飢餓ゼロを目指すということに取り組んでいる。

【日本青年会議所北越信越地区富山ブロック協議会】

- ・青年会議所では、2019 年 1 月の総会で「SDGs 推進宣言」が採択され、いち早く SDGs に取り組んできた。今、青年会議所全体としては、「推進」のフェーズはかなり浸透しており、全ての事業において SDGs の観点を取り入れた活動をしている。

- ・また、県成長戦略室のウェルビーイング推進課にもご協力いただき、昨年度、ウェルビーイングの推進に関する協定を締結し、昨年 9 月、富山ブロック大会という富山ブロック協議会の事業を「ウェルビーイング大作戦！」と銘打ち開催した。本年度も富山ブロック大会については、ウェルビーイングの観点を取り入れて開催を予定している。

- ・各青年会議所それぞれでも事業を展開しており、例えばとなみ青年会議所では、南砺市と SDGs 連携協定を 2019 年に締結。毎年 SDGs の推進に関する事業などを実施しておりデジタルパンフレットを作って南砺市さんのホームページにも掲載していただいている。また、今年 3 月、国際女性デーの啓発イベントということで、福野の方でジェンダーレスの推進というところで国際女性デーの啓発等を行っている。

【環境市民プラットフォームとやま】

- ・われわれの団体は、「みんなでミライ」ということで、いろいろな異なるものの中に入ってつないでいく、パートナーシップを構築していくのがミッション。今年度は、小学校で「気候変動教育」などを総合学習、探究学習で進め、そのサポートも行った。パートナーシップの具体的な促進としては、行政の SDGs 推進事業として、富山県、富山市、南砺市、射水市、高岡市の推進事業で一緒にさせていただいた。

- ・それから、再生可能エネルギーをテーマにした JICA の青年研修において、県内に多くの再エネのコンテンツがあることから、それをフィジー、ジャマイカ、ケニア、モーリシャス、メキシコ、ソロモンといった 6 カ国 9 名の方に学んでいただく会を設けた。

- ・また、企業や行政の SDGs が比較的に目立つなか、市民活動が SDGs として評価されることはなかなかなかったため、そういった全国調査を行っている。

- ・提案事項としては、昨年の「指標に基づいて毎年評価してはどうか」ということを反映していただき、ありがとうございました。ご提案いただいた 2030 年までの道筋を、「地方自治体 SDGs 達成度評価 2023」に基づいて進めるのは、とてもいいのではないかと考えている。

今回は、それを富山県としていろいろデータを整理してレビューするところまではできなかったと先ほどおっしゃっていたかと思うので、また来年そのようにできると良い。

- ・SDGs も、気が付けば残り 6 年 9 カ月というところで、世界的にも達成がどのくらいできているかというのは、今年度で言えば 15%しかまだできていないという評価もあるので、個別具体のゴールの達成促進の強化が必要ではないか。今までは総花的に SDGs を進めていこうということでよかったかもしれないが、ジェンダーの問題など、いろいろ個別にずっと課題になっているようなところがあると思うので、そこに県内 SDGs 事業としても力を入れていく方が良いのではないか。

- ・せっかくここに皆さん多様な方々がお集まりいただいているので、今の報告形態というのも良いと思うが、自分たちがやっている領域ではこんなことが課題なのだから、こんなことを思っているということをここで共有すれば、「じゃあ、そういったことであればわれわれが協力できそうだ」など、まさに困ったことに対してパートナーシップが進むのではないか。

- ・県からも同様に、先ほどの指標を基準にしながらも、「県としてはこんな部分が今進んでいて、ちょっとこのあたりはあまり進んでいないところです」と。例えば、自殺の数などもここ数年ちょっと増えているというのが県のデータを見ても分かりますし、女性管理職の割合なども数字として持っていらっしゃるものがあると思うので、そのようなものがここで報告されると良いのではないか。

- ・県の SDGs 推進事業について、いろいろフォーラムやイベントをやっていくのはいいと思うが、元々各担当課でいろいろやっているものを県の SDGs 担当事業として援護することも積極的に入れ込んでみてはどうか。「富山県 SDGs 宣言」のホームページでいろいろ紹介するなどは既にされていると思うが、他にも何かいろいろタイアップするようなこともいいのではないか。

- ・あとは市民がもっといろいろ参加して、意見をしていく。「パブリックコメント」という存在自体もまだあまり知られていないのかもしれないが、これをもうちょっと各担当課のを拾って PR してみてもどうか。これが具体的には SDGs のターゲット 16.7 の参加型意思決定の促進につながっていくと思う。

【富山県婦人会】

- ・婦人会では、普段様々な活動をしているが、その全てが SDGs につながっていると考えている。「婦人会だより」を 1 年に 2 回発行しており、いろいろな活動が載っている。

- ・例えば 2 月 1 日号では、富山環境フェアに参加し、緑豊かな富山県の自然の中で子どもたちを健やかに育てるため、もっといいものを広めていこうということで、捨てられているペットボトルを利用して、緑を豊かな暮らしの中に入れたらどうかということで、そういう体験型の学習をすることが、子どもたちの意識を高めていってくれるのではないかなと考え、植物に関するもの、おもちゃのコマ作り、そういうようなものを作りながら子どもたちにいろいろなことを学んでいってもらおうかなということで、大変興味を持って活動してもらった。

- ・それからもう 1 点は、8 月 1 日号、ちょうど食育推進の全国大会があり、それに絡めて、私たちの生活の中で食べ物に関するいろいろなことを見直しましょうということで、特に盛んにやっていることは食品ロスの削減だが、それと同時に塩分を減らしましょうとか、健康につながる活動を実施している。

・その他、直接食育とは関係ないが、洋服を捨ててしまうというロスが大変増えているということで、この機会に衣料品のロスを削減するということにも取り組んだ。そのようなことを普段の生活の中で行いながら、SDGs に結び付けている。

・もう一つ、以前からレジ袋の削減に向けた活動をしているが、皆さまの机の上にお配りしている小型のレジ袋は数日前にできたばかりで、今日も富山駅で頒布活動をしてきたところ。ピンクとブルーがあり、県の婦人会のマークが黒い字で描かれている。これを特にコンビニなどで使うと便利ですよということでお配りしているので、ご利用いただきたい。このように、生活の中のいろいろな面でSDGs を達成できればと思っている。

【富山県女性財団】

・富山県女性財団では「ジェンダー平等を実現しよう」を推進している。富山県の男女共同参画の拠点施設である富山県民共生センター（サンフォルテ）の指定管理者として、その管理運営と事業を展開している。

・事業方針としては、SDGs の達成、そして富山県の男女共同参画計画に基づき、五つの柱で事業方針を決めている。(1) 地域社会における男女共同参画推進と固定的性別役割分担意識と無意識の思い込みの解消。(2) あらゆる分野における女性の活躍推進及び若い女性に選ばれる社会環境づくり。(3) DV 被害者、環境変化による生活上の困難を抱えた女性の包括的な支援強化。(4) 若年層も尊厳と誇りを持って生きられるよう、男女共同参画意識啓発の推進。(5) 男女ともに働きやすい職場環境づくり、男性の家事・育児・介護への参画推進。この五つの事業方針に従い事業に取り組んでいる。

・事業については、大きく七つの分野で事業をしている。相談事業では、男性向けの相談もしており、情報提供として、ホームページ、広報誌「サンフォルテだより」を年4回発行している。お配りした Vol. 131 は一番新しいものだが、来年度のサンフォルテの事業計画が載っている。その他、男女共同参画の専門図書館はサンフォルテのみで、その運営、調査・研究も行っている。

・講演会をかなりの数実施しており、男性向け、子育て、そして女性のこころとからだ、生き方というようなテーマのセミナーを開催している。また、企業向けにリーダー塾や女性活躍の研修の出前セミナーもしている。

今年は特別に「パパと一緒にSDGs体験！」ということで、お父さんを対象にお子さんとSDGsの体験をしていただいた。立山杉の間伐材を使って椅子を作ったり、ジェンダー平等の絵本を見てもらったりというようなことを行った。

・その他、人材育成では男女共同参画推進員や地域の民生委員に出前講座をしている。さらに、6月の男女共同参画週間に2日間、サンフォルテフェスティバルを開催している。また、女性の就業支援ということで、働く女性のためのセミナーや初心者向けのPCセミナー、DV被害者のための自立支援などを行っており、No.5のジェンダー平等だけでなく、他のSDGsの項目と関連した事業で、主に意識啓発を行い、地道だが多くの県民の皆さまにサンフォルテに来ていただけるように、そして男女共同参画の団体がたくさん育っていくよう支援している。

【富山県消費者協会】

・消費者協会では、SDGsに関連した取り組みとして、近年は「エシカル消費」（人や社会、環境、地域など周囲に配慮した消費をすること。倫理的・道徳的な消費）、SDGsの主に12番目の目標「つくる責任、つかう責任」につながる感じになるが、これをその目標達成に貢献する具体的な消費行動として捉え、県民や事業者への理解を広め、そして実践を促すというような普及啓発に主に取り組んでいる。

・具体的な取り組みの中身としては、この会の最初に資料1でエシカル消費のPR事業について紹介があったが、これについて主に県から委託を受けており、エシカル消費のPR事業を今年度行った。

・中身的には大きく4つの柱になっており、1つは毎年10月に行っている富山県消費者大会におけるシンポジウムの開催。今年度は法政大学の柿野成美先生にお越しいただき、「未来をつくるエシカル消費—SDGs達成に向けて—」と題してご講演いただいた。県内の事業者、今回は二つの事業者に人や社会、環境、地域等に配慮した消費行動に向けた事業者としての取り組みについてご紹介いただいた。

・2番目の事業としては、事業者との連携によるPRということで、今年度はとやま生協さんとスーパーのアルビスさんにご協力いただき、エシカル消費についてPRをしていただいた。とやま生協さんには宅配の利用者も含めてSDGsのアンケートなどを行っていただき、アルビスさんにはCO₂削減を主なテーマとしてパンフレット等を配布いただくなどの啓発活動をしていただいた。

・それから3つ目の柱として、エシカル消費については特に若者の認知度が低いことから、主に若者への普及啓発の取り組みとして富山大学の学生さんにご協力いただき、大学生が自らエシカル消費について学習した上で効果的な啓発の方法について考えていただいた。学生さんの方で高校生～大学生を対象に独自のアンケートを実施し、そのアンケート結果と自ら学習した成果を基にして啓発チラシやパネルなどを作っていただいた。

・4つ目の柱としては、消費者協会ではいろいろな地域で普段、消費者へのいろいろな啓蒙活動を行っているグループがあり、そういった消費生活研究グループにおいてエシカル消費についていろいろ研究したり、あるいは実践を行うということで、今年度は4グループで実施した。具体的には消費者大会や、とやま環境フェア等で、例えば古着などのリフォームや食品ロス削減の取り組み等について発表した。

・その他、SDGsの取り組みとして、一つはフードドライブの実施。これは県でもフードドライブキャンペーンを行っているが、それに参画する形で消費者協会としても（フードドライブを）行った。家庭で余っている食品を持ち寄っていただき、食品を必要としている福祉団体へ寄贈した。今年度は11月に1カ月弱の期間実施し、666品目・80kgの食品が集まった。これについては富山市の社会福祉協議会、射水市の一つの子ども食堂、若者の支援を行っている組織の方へ寄贈し、有効に活用していただいた。

・それから、消費生活研究グループとの連携による普及啓発活動ということで、一つはごみ処理・リサイクル施設の視察研修を行った。また、協会では毎年度一つテーマを設けてアンケート調査を行っている。今年度は「エシカル消費」の認知度についても調査した。エシカル消費の認知度については、平成30年度の調査では認知度が11%、令和2年度の調査では19%だったものが今回は29%と、徐々に認知度は向上しているが、それでもまだ3割未満ということで決して高くはない、むしろ低いということで、令和6年度においては特に「エシカル消費」の認知度を上げる広報活動などに取り組む予定としている。

・消費者大会やとやま環境フェア等での活動発表を行っており、これらの活動を通してSDGs、特に12番目の「つくる責任、つかう責任」を主な目標として取り組んでいる。

【富山県PTA連合会】

・富山県PTA連合会は、SDGsの観点で言うと4番の「質の高い教育をみんなに」というところが活動の一番中心になると思います。

・活動で言えば、毎年11月に、県PTA連合会主催で会員大会を県民会館で行い、県内から750名のPTA会員の方にお集まりいただき、子どもたちのより良い教育や子育てについて語り合ったり講演を聞いたりしています。

・また、毎年1月には、「子どもたちの健やかな成長を目指して」というような視点から県知事に要望書を提出し、回答もいただいています。県教育委員会と連携した取り組みでは、5の『親を学び伝える学習プログラム』の推進（略称：親学び）があり、子育てのあり方や、子育ての悩みを保護者の皆さんで共有し解決したり助け合ったりする機会作りとしています。県内、小学校、中学校のPTAの会合の中で1年に1回以上取り組んでいます。

・「子ども110番の家」の看板というのは、私たちPTAと県教育委員会、県防犯協会、県警本部の四つが共同して運営し、子どもたちの安心・安全な通学、あるいは地域での安全な生活の場の確保のため、「子ども110番の家」の看板を県内、各校のPTAを中心に頒布して、地域内のお店等に設置され、「子どもたちが何かあったときにはそこに助けを求める」という体制づくりができています。

・そのほか、子どもと保護者の皆さんと一緒に活動する取り組みとして、「家族で実践！ふるさとの大クリーン作戦」があります。これは14番、15番の環境という観点になりますが、それぞれの校区で活動を行い、きれいなふるさとづくりに貢献しています。本年度は、1万6千人を越える参加がありました。

・また、給食指導の1つに「たベキリン」活動という食品ロス削減のための活動があり、PTAとしてもこの「たベキリン」活動の推奨には力を入れて、普及に協力しています。

・私たちの組織は全県から役員が集まってきており、さまざまな活動を通し、また役員会などで「こんな活動をやっていますよ」というようなことをみんなでお話し合う中で、SDGsの普及や、より充実した活動になるように努めています。

【富山市】

・富山市は、2018年6月に国からSDGs未来都市に選定され、今年度で6年目になる。当然、各施策、事業にはSDGsの仕組みを取り入れているが、本日はその中でも主に普及展開、市民への普及啓発に関する取り組みを紹介する。

・普及啓発について、「知る」「理解する」「実践する」の三つのステップで取り組みを行っている。まず一つ目の「知る」だが、県内で最も購読世帯が多い北日本新聞を活用し、9月から月1回程度、関連する取り組みや市の取り組みなどを掲載して啓発を図っている。

・2つ目の「理解する」について、多様な主体がSDGsへの理解を深め、また行政等との連携の場の創出を図ることを目的とし、1週間に多彩なイベントを集中的に開催する「富山市SDGsウイーク」を開催している。令和元年度から開催しており、今年で5回目。今年度については、令和6年1月27日から2月4日にかけて開催し、事業数としては過去最高となる25事業を開催することができた。特徴としては、ただ市の主催というだけではなく、市のSDGsサ

ポーターの方々が主体となって行う事業などもあり、防災や環境、農業、教育、さまざまな分野のイベントを開催することができたと思っている。

- ・「富山市 SDGs ウィーク」のメインイベントとして、毎年、SDGs 推進フォーラムを開催している。今年度はメインゲストとして元プロ野球選手の斎藤佑樹さんをお招きし、藤井市長とのトークイベントを開催した。今年はスポーツに焦点を当て、「スポーツと SDGs」ということで、気軽に、日頃から取り組みやすい、実践できる SDGs ということで、理解が深められたものと考えている。

- ・「実践する」について、今年開催したフォーラムの当日の会場で、お子さまから高齢者の方まで参加できるワークショップのブースを八つほど設け、いろいろなメニューを提供した。例えば、富山国際大学付属高校の若者と連携し、エコバック制作やすごろく、その他、民間企業と連携した花育体験等々、さらに、ポッチャ体験なども同会場で実施した。

- ・最後に、市民の認知度（関心度）を紹介する。市では3年に1回、市民意識調査を行っており、R2年度（前回）調査からR5年度（今年度）調査までの3年間、認知度、関心度ともに大幅に伸びている。また、市のサポーター登録者数、SDGsに取り組んで一緒にやっぺいこうという方々も着実に増加してきている。こういった取り組みを引き続き行いながら、一緒に頑張ってSDGsを推進していきたいと思っている。

【南砺市】

- ・まず、今の富山市さんの取り組みが非常にうらやましいと思うのは、参加者が450人とか280人とか非常に多いこと。私たちは20人集めるのも大変という形だが、出前講座やいろいろなブースを出し、年間で大体二千数百人の市民の方に参加いただいている。これで4年間続いているので、8000～9000人の市民の方にSDGsの普及啓発活動に参加いただいております、それを続けていかなければと思っている。

- ・南砺市にはステップが三つあり、ステップ2からステップ3、「行動する」というのも全員が、多いというわけではなくてまだここにも課題があるのだが、早くそれを拡大する、つなぎ合わせるといふところに行きたいということを考えている。令和5年度では、地域の企業や団体の活動を見えるようにして、それを市民の方にもお知らせして、そういう団体と地域とをつなぐ、あるいは団体同士をつなぐような形でSDGsカフェや実践ワークショップをしていくというようなどころに取り組んできた。

- ・内容については資料に記載されているが、まずここで申し上げたかったのは、「連携：PECとやま」と書いてあるように、この協議会に出ささせていただき、おかげさまでPECとやまさんと、連携ができるようになった。非常にありがたく、この協議会に参加させていただいている意義を感じている。PECさんの知見をお借りして、南砺市のSDGsの普及啓発活動に取り組んでいる。

- ・あるいは、JCさんとも連携をさせていただき、毎年、南砺市のSDGsの普及啓発活動に取り組んでいることは、パートナーシップというか、非常に大切なことだと感じている。

- ・来年度、南砺市が誕生して20年目という非常にいい節目になるので、南砺市では次の20年を考える機会にする令和6年度にしたいと思っている。こちらにご参加の各団体にはそれぞれ南砺市の構成会員の方がおられると思うので、ぜひ一緒に南砺市のSDGsにご協力、ご参加を頂きたいと考えている。

- ・南砺市の新しい取り組みとしてまず今考えているのは、ジェンダーに関する新しい係がで

きるので、そういった取り組みを新たに進めてまいりたいと思っている。「こどもまんなか」という部分も新たに組み込んでいく。

- ・南砺市でも徐々に外国人が増えてきている。そういったところにも着目し、市民団体等と一緒に外国人の住み良さにも着目していきたいと考えている。また、人材育成としては、来年度からアントレプレナー教育をしっかりと中心に据えて取り組んでまいりたいと思っているので、ぜひ皆さん方のお知恵などお借りできればと思っている。

- ・農林業については継続して力を入れてやっていきたいと思っている。今は有機農業やバイオマスの燃料みたいなところをやっているが、そこも引き続き、より重点的に取り組んでまいりたいと思っているので、ぜひ連携の方をよろしくお願ひしたい。

【氷見市】

- ・このたび、令和5年度にSDGs未来都市に氷見市が選定されたということで、この会議にも参加させていただくことになった。また、能登半島地震で氷見市は大きな被害を受けたが、それに対して多くの方からたくさんのご支援を頂いたことに対し、お礼を申し上げる。

- ・氷見市では、5月にSDGs未来都市に選定された後、こちらの資料に付けたのが、「富山県SDGs未来都市計画」に記載した氷見市の取り組みの内容となっている。これは総合計画に記載した内容を、SDGsの観点でまとめて国に提出した内容となっている。その後、市内でSDGsを推進していく上で氷見市と一緒に推進していただけるパートナーの皆さまを募集しており、現在52の団体の方に登録を頂いている。今年の3月に未来都市に選ばれたということで、そうしたパートナーの皆さんと一緒にスタートアップのイベントを開催したいと計画していたが、今回の震災により開催時期を変更して、秋くらいに開催したいと思っている。

- ・また、SDGsを推進していく上では、市民の皆さま一人ひとりが取り組んでいただくことが大変重要ということで、毎月の市の広報の方に、簡単にできるSDGsということで、普段からできるようなSDGsの取り組みを毎月1件ずつ紹介するような取り組みも進めている。また、小学校などへ出前講座に行き、SDGsを普及するというような活動も行っており、先日も、小学校に行ってきたところ。

- ・今回の地震を受けて、氷見市内では全世帯が断水した関係で、1週間から、長いお宅では20日間ほど水が出ないというような状況の中、全国の皆さまからペットボトルに入った水や給水車による給水活動、また人員の派遣などご協力いただいた。そういった部分では、SDGsの6番のゴールにつながる取り組みかと思っている。また、17番のパートナーシップという部分でもそういった活動がSDGsの取り組みにつながっている。そういったことを皆さんに知っていただくことが、まず普及啓発という部分で大事なのかなということで、そういった部分をこれからもお伝えしていけたらと思っている。

【富山県商工会議所連合会】

- ・県内の商工会議所の主な取り組みとしては、富山商工会議所では令和4年度に環境アクションプランというものを作成した。3カ年のプランだが、日商の「CO₂チェックシート」を使い、脱炭素、炭素の削減をやろうとしている。その他、エコ検定試験の受験を推進している。また、会議所自体では節電・節水、ごみの減量、照明のLED化やペーパーレス化を進めて環境負荷を下げる取り組みを行っている。

- ・高岡では「たかおかSDGsパートナー制度」ということで、会議所、市や損保会社、それか

ら地域の金融機関、青年会議所などがサポーターとして連携し、交流会や申請登録の推進等を行っている。登録事業者数は今、全部で146ぐらいだと聞いている。

- ・それから黒部では、会議所の委員会活動の中の「地域力委員会」が、今年度から3カ年のテーマに「SDGsの普及推進」を掲げて、今、計画を作っている。今年度は初年度ということもありインプット段階ということで、先進企業の視察などを実施したと聞いている。

- ・氷見の方では電力の地産地消ということで、氷見ふるさとエネルギーへの協力、海洋ごみの清掃活動、それから今ほど氷見市さんからもありましたが「SDGs未来都市」の推進計画への協力を進めると聞いている。

- ・その他、他の会議所も含めて、関連セミナーの開催や視察会の実施、それから会報やホームページ、メールマガジンなどでSDGs関連情報について随時発信している。

【富山県商工会連合会】

- ・私の個人的な印象などを申し上げる。商工会連合会は、県下に12の商工会があり、会員が1万人ほどいる。そういう事業者に対する経営支援やイベントのサポートといった活動をしている。われわれの活動そのものがSDGsのゴールにあると思うが、事業者の方に「SDGsだからやりましょう」という言い方はできないと思うし、SDGsと言ってもまだ理解されていない現状があると思っている。

- ・それであれば、カーボンニュートラルなどは非常に分かりやすい言葉だと思っているので、SDGsという言葉にとらわれる必要はないと思う。ただ、商工会連合会として、各商工会などに、ここに掲げてあるSDGsの取り組み。エコも当然そうだが、公共交通の活用とか、経営支援とは別にそういったことにも取り組んでいきたいと思いますという新たな取り組みができたかなと思っている。

【富山県中小企業団体中央会】

- ・令和4年度にSDGs宣言をし、六つの目標を設定した。そのうち例えば人材の育成、あるいは地域経済の発展・活性化については、職員に対しOJTあるいはOFFJTを通じて人材育成を図っている。また、本会の会員である、例えば井波彫刻、あるいは高岡銅器などの伝統工芸品、あるいはその他地域資源の活用についても支援している。

- ・また、目標の一つである、多様な人材が活躍できる職場環境を整備するという点については、例えばハラスメント防止マニュアルを作成したり、初めての女性管理職を登用したところ。また、女性社員比率についても、現在30%まで引き上げている。さらに、働く人が健康で働きやすい環境づくりを推進するという点で、2022年に「とやま健康企業宣言」のステップ1の認定を受けたところ。

【富山県経営者協会】

- ・当協会の事業活動の基本は、長年「企業と人にフォーカス」した事業活動をしており、多様化する会員のニーズに対応した経営課題に関する調査、研究、広報。また、あらゆる業種、階層に応じた人材育成の研修セミナーの実施を通して会員企業の持続的な発展に寄与するような活動を行っている。

- ・例えば、企業経営層向けでは、定時総会や、富山地区、西部地区、東部地区といったエリアに分けた地区懇談会を実施している。今年度は働き方改革、エンゲージメント向上、そし

て人的資本経営に関するテーマでの講演会を4回実施しており、延べ約550名に参加していただいている。

- ・また各企業の社員能力向上を目的とした講座、研修セミナーも実施している。新入社員から経営幹部まで階層別に労務管理、品質管理、生産管理、購買、営業、そして経理といった部門別に年間56回開催しており、約1800名のご参加を頂いている。

- ・ただ、(これは課題というわけではないが、)コロナの時期はオンライン参加率が非常に高かったが、今年度5月から5類移行に伴いリアル定員を増やしての開催を設けたところ、当然ながらオンライン比率が10%を切るような参加率となった。オンラインも含めもっと裾野が広がるような工夫をしていきたい。

- ・さらには当協会では六つの委員会の中で、異業種の委員同士で様々な各社の課題の議論、意見交換をしていただき、自社の問題解決につなげるといったような持続可能な企業経営につながる活動もしている。

- ・最後に環境問題に関しては、環境委員会が中心となって、カーボンニュートラルの実現に向けた勉強会、また省エネ、脱炭素といったことに関しての企業の取り組み事例、そしてDXを地域のビジネスチャンスや経営に生かすセミナーといった座学の他に、県内の企業、また県外の企業の見学会を通じて体感していただいている。

【県】

- ・特に聞いていて非常に良かったと思ったのは、南砺市ではこの会議をきっかけとして連携が生み出されたというところ。まさに今回は連絡推進協議会ということで、連携をいかに作り出していくかというところが一つの大きな関心。そういったものが一つでも二つでも着実に生み出されるというところに、われわれとしてもしっかり対応していきたいというふうに思う。

- ・また、環境市民プラットフォームの堺委員から具体的なお提案ということで、進め方についてもご示唆を頂いて、大変ありがたいと思っている。事務局から説明したが、都道府県別のSDGsの達成状況のようなデータも出始めており、もう少し事務局の中でもデータをしっかり分析していきたいと思う。

- ・一つ主張しておきたいのは、富山は全国の中でもSDGsがかなり進んでいる都道府県であるということ。ご報告させていただいた都道府県別のSDGsの達成度が、緑のところが多いというのが、結果としても出ている。

- ・ただ、例えばクリーンエネルギーの使用や地球温暖化の対策、気候変動に具体的な対策をとるところなど、富山県としてはかなりしっかりやっているとと思われるところできちんとした評価が頂けていないのかなと思うようなところも見受けられました。こういったところのバックデータも少し丁寧に見させていただき、自信を持ってこういった取り組みを前にどんどん進めていき、日本の先頭を切るような取り組みを富山からお示ししていくということが、SDGs未来都市の役割を果たすということではないかと考えている。

【環境市民プラットフォームとやま】

- ・SDGsでできていることは、ある意味もうそれでいい。できていないことをどうするかということの方が、重要ではないか。進捗を図るということはこの場で主張してきたのも、結局、われわれがやっていることはいろいろあると思うが、本当にそれで社会が変わっている

のかというところの評価がなかなか見えてこないというのが、一番問題ではないかと思う。
・それが今回、国が取ったデータで指標化されて、一つ基準になるのはとてもいいと思うが、自分たちの中でここは課題だなという部分、県としては特に5番のジェンダー平等は、本当に全国真っ赤になっていたと思うので、そこはできているということではなくて、できていない部分として、「ここは皆さん、もうちょっと協力してもらえませんか」というような、そっちの方が大事ではないかと思う。皆さんが集まってこうやって共有して、次の年に向けてどう積み上げていくのかというのが大事だと思う。この協議会がそんな協力体制の積み重ねにつながるような会であれば良いと思う。

4. 閉会

(以上)

以下、会議終了後に委員からいただいた意見を掲載します。

なお、いただいた(提案1)については、今後見直すこととしています。また、(提案2)については、ご指摘を踏まえ県HPを改修しました。

【環境市民プラットフォームとやま 堺委員】

(提案1)協議会の構成の見直し

・今年の協議会も前年までと変わらず、各々の実施事項の報告だけで大半を費やし、意見交換は残り5分という構成だった。これでは経年でSDGs達成を促進していく機能はほとんど働かないと感じる。年度ごとに評価や次を考えるPDCA機能が働く協議会になるような構成変更が必要と考え、以下の具体策を提案する。

→協議会を意見交換・対話を中心とした構成にする

<具体的な構成案>

1. 県SDGs未来都市計画の進捗について(進捗/課題)

- ・県から概要報告
- ・委員からの意見(県を含めた意見交換)

2. 県SDGs全般の進捗について(SDGsゴール毎での進捗/課題)

- ・県から概要報告
- ・委員からの意見(県を含めた意見交換)

3. その他(情報・意見交換等)

※旧来の各組織の報告事項は書面のみで済ます(事前提出：口頭報告なし)

(提案2)経年分の議事録・会議の資料公開

・現在、県Webサイトでは議事録・会議の資料公開は最新のものしか見ることができない(又は探せない)状態。過去の分も一括で見られるように公開したほうがよい。

→理由：広く一般市民が経年で内容を追うことができるように。

(公開例)日本政府のSDGs推進本部や円卓会議の資料・議事録集

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/index.html>